

## 戌亥天中殺の人間関係

戌亥天中殺は、六つの天中殺の星のうち、外側から見ていて一番解りにくい存在と言って良いと思います。大変にデリケートな神経を持っていながら、大らかに見えるため、甘く見て近づいて来る人が少なくありませんが、ひょっとした拍子に、その激しい内側が現われてしまうことがあります。そうした激しい内側に触れた人は、見かけとはだいぶ違うことに驚いてしまうことがよくあるのです。

この、見かけとはずいぶん違う内面を持っている戌亥天中殺の(宿命の)本質は「無から有へ」というエネルギーの働き、そして「孤独」とか「静けさ」といったものです。(「無から有」というのは、全くゼロ＝無のところから、何か自分のものをつくりだしていく力です。学者ならなにか新しいものを発明・発見した、創りあげた……というような人が多いのです。単に、アイデアが浮かぶといった程度ではなく、もっと大きな働きをしようと思っています。)

次に「孤独」ということですが、親・きょうだいがいないという孤独ではなく、応援がない人生を歩く、といった意味での孤独です。誰かに頼ろうとしたり、力を借りようとする、それだけ、持って生れたエネルギーは発揮されず、不満の多い人生になります。

「静けさ」ですが、この戌亥天中殺は、仕事のときはどんなに忙しく、せわしくても平気です。それに充分対応できるパワーもスケールももっています。しかし、いったん、それに区切りがついたら、静かなシーンとした自分だけの時間がないとやっていけないのです。また、そういう時間をもつことが、この天中殺の運を伸ばしていく事になるのです。六中観にあります『忙中有閑(忙中閑あり)』をお忘れなく。)

また、戌亥天中殺は自分一代で新しい世界、財産を築いていく運命をもっているのです。(その意味では「子丑天中殺」の初代運とも似ていますが、本質は全く違います。)

この中殺は、六つの天中殺の星のうちでも一番心の支えが少なく、それだけに心の修練を積む必要があり、それに集中しだした人が心の高い次元を会得して宗教家とか思想家になっていきます。これらの人に戌亥天中殺生れが少なくありません。一方では、心の修練にまるで関係なく、怠け心のままに流されてしまう人もいます。その差が非常に大きいのが、この中殺の特徴です。

戌亥天中殺はどんな分野においても、自分独自の独特な世界を開く力を持っていると言っていいと思います。その意味で、ある種のカリスマ性を備えた人が少なくありません。

### ■午未天中殺の人との相性

戌亥天中殺にとって、午未天中殺というのは秘書的、中継ぎ的な役割をしてくれる相性のよさがあります。職場などでも、実際には秘書でなくて、同僚とか部下なのに、午未天中殺は自発的に秘書的なことをしてくれる……伝言をメモしてくれたり、スケジュールをしっかりと頭に入れていてくれたり、なにかとマメマメしく面倒をみってくれる相手です。

同じ会社にいなくても同じようなことが起こります。たとえば、いつも訪ねる会社の窓口に何人かの受付の女性がいて「お願いします」と声をかけると、なにかと戌亥天中殺の便宜を図ってくれるのが不思議に午未天中殺が多いのです。そんな些細なところでも、天中殺同士の交流があらわれているから不思議です。

秘書的役割りと言うのは、助けてくれるけれど現実には利益をもたらさない関係をいいます。

それと、午未天中殺と言うのは、仕事上、戌亥天中殺に利益をもたらす人を紹介する、仲介するという働きもします。中継ぎ役とでも言いましょうか、そういう人を会わせてくれるのです。

ですから、会社でなら、むしろ部下とか、恋人とか、妻(夫)が午未天中殺だと非常に有り難いわけです。

午未天中殺の恋人や妻をもつと、その人たちがなにかと、マメマメしく、仕事上便利のように身の回りを見してくれるのです。

家に帰っても、電話の要件をきちんとメモしてあったり、これこれの書類を揃えておいてくれと言っておけば、忘れず用意しておいてくれる……というように、戌亥天中殺の仕事がしやすいような、助かる存在になるわけなんです。